

## 事例1

### 「不登校」が予測される小学5年生への予防的な指導援助

～母親への気づきを図り、担任との信頼と協力を通して～

(指導援助者は学級担任, 30歳, 女性)

- 1 予測される問題行動 不登校
- 2 対 象 小学校5年生 女子(S子)

#### 3 問題行動予測の動機

- 周囲から厳しい批判を受けることがあり、グループ活動に入れず、仲間から取り残されている。
- 4年生まで欠席が多く、5年になっても授業中に身体症状を訴えることがあった。
- 学習意欲が乏しく、宿題なども提出しない。

#### 4 予防援助の経過

##### (1) 既存の資料から

###### ① 指導要録・生徒指導個票等(4月)

- 自分から進んでは行動せず、おとなしい。
- 基礎的な学習内容が定着していないため、個別指導が必要である。(4年生時)

###### ② AAI学習適応性検査(5月)

- 失敗などを自分の能力のせいにしてしまい、自分は何をしてもだめだと思ふことがあり、常に劣等感を抱いている。
- 肥満タイプであることを非常に気にしており、内向的になっている。

##### (2) 一次予測診断

肥満や学習に劣等意識があり、自信欠如からクラスの中で内向的になり、孤立している。背景に、日常生活における強い不満感や情緒不安があるものと思われる。

軽度の身体症状があるが、現時点では深刻化していない。しかし、クラスの中で、わがままと受け取られることがあり、S子責める児童もいる。

適切な指導援助がなされないならば、不適応状態が深刻化することが予測される。

##### (3) 一次予防仮説

- 休み時間などに気軽に声をかけ、楽しい会話をしながらラポールを深め、情緒の安定を図る。
- 学級の「ふれ合いの時間」にみんなが一つになって活動することにより、互いに認め合い、助け合える雰囲気をつくり、S子を学級にとけ込ませる。

##### (4) 経過 I

###### 気になる身体症状

4月終わり、体育の授業の時間に、頭痛、腹痛を訴え、保健室で休んだ。

何となく気になっていると、養護教諭から「S子さん、朝食をとっていないようです。」という話があった。

その日の夕方、家庭訪問すると、母は、これから勤務先の飲食店に出かけるところだった。

担任「突然おじゃましてすみません。今日、S子さん、体育の時間に保健室で休んだのですが。給食の後は元気になったんですけど・・・朝ご飯を食べてこなかったようですが、どうですか？」

母親「あら、すみません。また、朝ご飯食べて行かなかったんですね。いえ、用意はしてあったんですけど・・・」

担任「ときどき、気分が悪くなるみたいですね。」

母親「ご心配かけてすみません。先生、S子、わがまましてませんか。自分勝手な・・・だから、友達もいないようで・・・」

担任「だんだん、友達もできると思います。ところで、今、S子さんは？」

母親「あら、さっきまで家にいたんですけど？」

その後は、組替えになった学級の様子とか、5年の学年行事のことなどを話し合った。

初めての面談ということで、母親に安心感を与えるように心がけてラポールを図っていった。